

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>[授業の目標]</p> <p>基礎的な概念を平易に解説することを第一の目的としている。第二には、現実感覚を持って学べるようにするため、新聞記事やDVD、海外視察時の画像、Webサイト上の資料などを活用し世界と日本で今どんなことが焦点になっているかを伝えるよう努力している。</p> <p>第三には、実学的な要素もとりいれつつ、これからの社会人としてふさわしい知識、思考力を身につけられるような講義を目指している。</p> <p>第四に技術的な指導として、可能な限り、基礎的な文章作成能力向上を図るため、レポート課題を課している。</p> <p>[効果・自己評価] 効果については、3の学生による授業評価でもふれるが、概ね積極的な影響を与えていると自己評価している。その上で授業改善がさらに効果を発揮するためには、従来から言われてきた、自主的に学ぶという姿勢を学生に身につけさせることが引き続き重要であるとともに、決められた期日に課題を提出・発表する、ノートを持ってくる、遅刻・欠席をしないという、「社会的ルール」の確立が担当科目受講生を見る限り、不可欠となっていると思われる。</p>																
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>「ビジネス実務総論」を採りあげて以下に記述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[要望]主な改善希望意見はスライドの文字の色が見づらい、など ・好評だったのは、DVD視聴、経営の実態が学べた、など ・[満足度]：3.8(5段階評価) ・ <p>改善の取り組みの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD視聴をさせフロアに入って意見を聞いたことについて好意的なコメントがあった。したがってこの取り組みを継続したい。 <p>改善に向けた今後の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロアに入って意見を聞くという取り組みの回数を増やしていきたい。 ・視聴覚教材は今年も好評だったので今後も継続していきたい。 																
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>1998年に、『アグリビジネス論』(中野一新編・有斐閣)の共著者として参加。農業政策参考図書として『現代の食とアグリビジネス』(大塚茂・松原豊彦編・有斐閣)(共著)を2004年5月に発刊。現在、教材は、毎授業時に、講義の要点を記した項目レジメを中心的には使用するとともに、学生の関心を喚起するため、映像を用いた講義を積極的に心がけている。具体的には、ビデオ視聴や海外視察に撮影した画像、Web上の統計資料情報などのプロジェクターによる映写である。</p>																
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1996年度～1997年度</td> <td>バドミントン部顧問</td> </tr> <tr> <td>1997年度</td> <td>処分学生への指導・援助(反省文・課題文添削・面談・訪問)</td> </tr> <tr> <td>2001年度</td> <td>経営経済科 1年生特別講座 講師</td> </tr> <tr> <td>2002年度</td> <td>学生委員</td> </tr> <tr> <td>2003年度</td> <td>学生委員・ローターアクトクラブ顧問</td> </tr> <tr> <td>2005年度</td> <td>フットサル部公式試合引率(9月)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	1996年度～1997年度	バドミントン部顧問	1997年度	処分学生への指導・援助(反省文・課題文添削・面談・訪問)	2001年度	経営経済科 1年生特別講座 講師	2002年度	学生委員	2003年度	学生委員・ローターアクトクラブ顧問	2005年度	フットサル部公式試合引率(9月)				
1996年度～1997年度	バドミントン部顧問																
1997年度	処分学生への指導・援助(反省文・課題文添削・面談・訪問)																
2001年度	経営経済科 1年生特別講座 講師																
2002年度	学生委員																
2003年度	学生委員・ローターアクトクラブ顧問																
2005年度	フットサル部公式試合引率(9月)																
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1996年度</td> <td>東北・北海道地区一般教育研究会参加(於 北海道教育大学旭川校)</td> </tr> <tr> <td>1996年度～1997年度</td> <td>農業経済科 2年生 委託実習先訪問</td> </tr> <tr> <td>2002年度</td> <td>経営経済科 1年生地域デザインコース 実習先訪問</td> </tr> <tr> <td>2002年度</td> <td>経営経済科 1年生特別講座 司会・アンケート作成担当</td> </tr> <tr> <td>2012年度～</td> <td>環境農学科 2年生 委託実習先訪問</td> </tr> </table>	1996年度	東北・北海道地区一般教育研究会参加(於 北海道教育大学旭川校)	1996年度～1997年度	農業経済科 2年生 委託実習先訪問	2002年度	経営経済科 1年生地域デザインコース 実習先訪問	2002年度	経営経済科 1年生特別講座 司会・アンケート作成担当	2012年度～	環境農学科 2年生 委託実習先訪問						
1996年度	東北・北海道地区一般教育研究会参加(於 北海道教育大学旭川校)																
1996年度～1997年度	農業経済科 2年生 委託実習先訪問																
2002年度	経営経済科 1年生地域デザインコース 実習先訪問																
2002年度	経営経済科 1年生特別講座 司会・アンケート作成担当																
2012年度～	環境農学科 2年生 委託実習先訪問																
研 究 業 績																	
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>[研究分野] 農業・食料供給システム論</p> <p>[研究活動] この研究分野における研究活動では、調査活動が大きな比重を占める。学会や研究グループによる調査・視察を行ってきた。海外における調査もアメリカ、ドイツ、イタリアの3カ国を訪問し、そこでの農業・食料生産の現状や政策効果などの聞き取り調査を行ってきた。このような国内外の農家・農業関連産業など農業・食料生産・流通の現場への調査活動の成果は、紀要等において発表してきている。また、共同研究も積極的に進めてきており、研究成果では、京都大学大学院所属の研究者をはじめとする国内外の研究者と共同し、文部省科研費の研究成果報告書や『アグリビジネス論』等で発表してきた。</p>																

2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	市場原理志向を特徴とする現下のグローバル経済下で、日本の農業と食料供給システムもまた大きな構造転換をとげつつある。この食料供給システムを研究対象に、第一にその階層の内部構造を解明すること、第二に階層間の相互関係を明らかにすること、しかる後に総体としての食料供給システムに対する国家・地方公共団体の政策や他の経済主体の影響を検証するという研究方法をもちいて、研究課題に取り組んでいく。 農業・食料生産活動は、日本の地域経済において今なお、地域経済において重要な存在である。この点から、今後の研究展開の方向性としては、今日分権化のもとで進められている地域再編の課題を農業・食料供給システム論の見地から解明を進めていきたいと考えている。
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1)文部科学省科学研究費 1996年度～1998年度 科学研究費補助金による共同研究「WTO体制移行下におけるアグロ・フード・システムと農政再編に関する国際比較研究」(課題番号 08303006) (2)学内 (3)学外
4 資格・特許等 (主要3件以内)	

著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約		
(著書)						
アグリビジネス論	共著	1998年1月	有斐閣	p217～p. 221		
現代の食とアグリビジネス	共著	2004年5月	有斐閣	p. 29～p. 50		
〃	〃	〃	〃	p. 251～p. 272		
(学術論文)						
加工型畜産と飼料メーカーの展開－1950年代～70年代を中心に－	単著	1992年6月	『経済論叢』第149巻第4・5・6合併号			
食肉自由化と食肉加工資本の展開－日本ハム株式会社を中心に－	単著	1993年12月	『龍谷大学経済学論集』第33巻第3号			
食肉自由化と配合飼料メーカー	単著	1994年4月	『経済論叢』第153巻第3・4合併号			
ガット・ウルグアイ・ラウンドと日本の畜産業	単著	1994年10月	『京都大学経済論集』第9号			
WTO体制下の農協経営	単著	1999年3月	平成8年度～平成10年度科研費研究成果報告書(08303006)			
(翻訳)						
アグリビジネスと契約農業	共著	1992年4月	大月書店	p. 241～p. 253		
(その他)						
深川市地域商圏住民意識調査報告書	共著	1997年3月	深川商工会議所	p. 3～p. 91		
イタリア農業事情視察記	単著	2001年5月	拓殖大学論集『人文・自然・人間科学研究』第5号			
『京の旬』(京都ふるさとセンター編集・昭和堂)の書評	単著	2005年1月	『農業と経済』2005年1月号			
食の安全をどう考えるか－食のグローバル化がもたらす現代の食情	単著	2005年5月	『資源環境対策』2005年5月号			
マクドナルドは世界を食いつくすか?－逆風下のマクドナルド企業戦略の意味	単著	2006年3月	『農業と経済』2006年3月臨時増刊号			
メジャーの戦略(1)穀物メジャー	単著	2006年11月	白桃書房	日本流通学会編著『現代流通事典』の1項目を担当。(p. 116)		
『食品安全問題と法律・制度』(梶川千賀子著)の書評	単著	2014年3月	『フロンティア農業経済研究』第17巻第1号			
研究業績(過去3カ年分)						
著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の 有無	

学 内 運 営 業 績		
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	1996年度～2000年度	入試広報委員
	2001年度～2003年度	教務委員
	2002年度～2003年度	学生委員
	1998年度～2000年度	ネットワーク管理委員
	2004年度	入試広報委員副委員長
	2005年度～2006年度	入試広報委員長
	2007年度～2008年度	図書委員長
	2009年度～2010年度	教務委員
	2010年度～2015	図書委員長
	2011年度～2015	入試広報委員
	2016年度～	図書委員
学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通じた活動 (主要 10 件程度)	2000年4月～	深川市農業振興委員
	1998年4月～2004年3月	北空知交流楽会会長(民間団体)
	1999年4月～11月	北空知広域圏海外研修事業コーディネーター
	2008年7月	ベターホーム協会主催講演会「日本の食料をどうする？」をテーマに講演
	2010年8月～2011年3月	深川市都市再生整備計画評価委員
	2011年4月～2012年3月	深川市男女共同参画市民懇話会委員
	2013年8月17日	北海道教育委員会主催スキルアップサマーキャンプ講師「グリーン・ツーリズムの実際」
	2014年10月1日	JICA ベトナム農村振興研修講師
	2014年11月12日	空知農協青年部連合会北ブロック総会講演講師
	2014年12月13日	雨竜町中島第2町内会 青友会主催講演会講師
	2015年5月～	北海道地域・自治体問題研究所理事
	2016年11月11日	空知農協青年部連合会北ブロック総会講演講師
	2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	1999年4月～2011年3月
2010年7月～2014年7月		日本農業市場学会監事
2011年3月～		北海道農業研究会幹事
2016年7月9日		北海道農業研究会定例研究会コメンター